# 【高精度な画像分類器作り

## チューニングで高精度化

NHN TECHORUS Tech Blog AWS Data Science Tech Event Column

tmtk ツイート



#### **Topics**

- はじめに
- 実験
- まとめ
- 参考

こんにちは。データサイエンスチーム tmtkです。 この記事では、桜とコスモスの写真を分類する機械学習モデルを、**ファインチューニングを用いて作成**します。

#### はじめに

前回の記事では、畳み込みニューラルネットワークをゼロから作成し、学習させることで、桜とコスモスの写真を分類する機械学習モデルを作成しました。 今回は、ImageNetのために作られた**VGG16**という畳み込みニューラルネットワークの一部を改変・再学習

今回は、ImageNetのために作られた**VGG16**という畳み込みニューラルネットワークの一部を改変・再学習することで、桜とコスモスの写真を分類する機械学習モデルを作成します。このような方法を、**ファイン チューニング**といいます。

#### 実験

前回の記事と同じ準備の下で実験をします。 IPythonを起動します。

```
1 | ipython3
```

まずは、念のため乱数のシードを固定します。

```
import numpy as np
import tensorflow as tf
import random as rn
import os
from keras import backend as K
os.environ['PYTHONHASHSEED'] = '0'
np.random.seed(0)
rn.seed(0)
session_conf = tf.ConfigProto(intra_op_parallelism_threads=1, inter_op_parallelism_threads=1)
tf.set_random_seed(0)
sess = tf.Session(graph=tf.get_default_graph(), config=session_conf)
K.set_session(sess)
```

次に、画像データを読み込みます。前回と違うところとして、VGG16用の前処理を画像データに施しています。

```
from keras.preprocessing import image
from keras.applications.vgg16 import preprocess_input
from sklearn.model_selection import train_test_split
import keras
import numpy as np
import os
input_shape = (224, 224, 3)
batch_size = 128
epochs = 12
num_classes = 2
x = []
y = []
for f in os.listdir("sakura"):
    x.append(image.img_to_array(image.load_img("sakura/"+f, target_size=input_shape[:2])))
    y.append(∅)
for f in os.listdir("cosmos"):
    x.append(image.img_to_array(image.load_img("cosmos/"+f, target_size=input_shape[:2])))
    y.append(1)
x = np.asarray(x)
x = preprocess_input(x)
y = np.asarray(y)
y = keras.utils.to_categorical(y, num_classes)
x_train, x_test, y_train, y_test = train_test_split(x, y, test_size=0.33, random_state= 3)
```

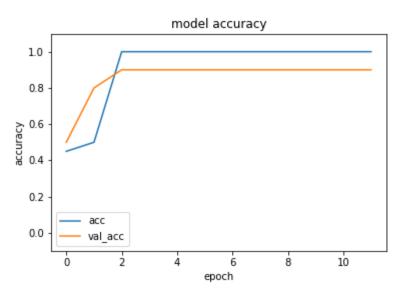
VGG16のモデルを最後の全結合層を除いて読み込み、かわりに新しく別の全結合層を付け加えます。VGG16の部分の畳み込み層は再学習しないように設定します。

自分で付け加えた全結合層の部分を学習させます。

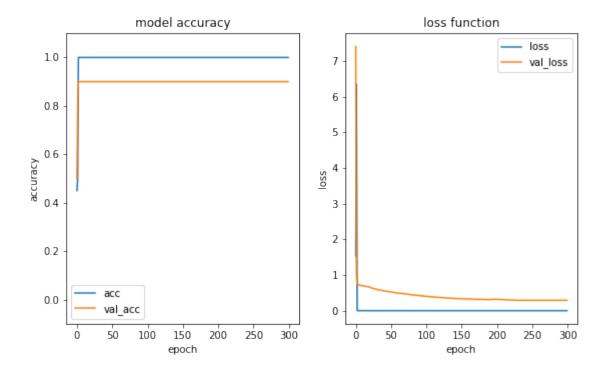
```
history = model.fit(x_train, y_train,
batch_size=batch_size,
epochs=epochs,
verbose=1,
validation_data=(x_test, y_test))
```

以下のように学習が進みます。

今回は、学習した結果、最終的に**訓練データに対する精度が100%、バリデーションデータに対する精度が90%**になっています。前回の記事でゼロから学習をしたのとは違い、VGG16というImageNetのために作られた汎用性の高いパラメータとモデルを使うことで、汎化性能と精度を得ることができました。また、学習時間も学習エポック数も前回の1/10程度になり、学習も前回より非常に速く進んでいることがわかります。



(訓練データとバリデーションデータに対する精度の推移) また、エポック数を増やしてもこれ以上あまり学習は進みませんが、前回とは違って過学習には陥らないこと がわかります。



(300エポックまで学習した場合)

#### まとめ

この記事では、桜とコスモスを分類する畳み込みニューラルネットワークを、VGG16をファインチューニングすることにより作成しました。前回の記事でゼロから学習したのと比べて、学習も高速に進み、汎化性能も獲得することができました。

前回の記事でゼロから学習したのと比べて、学習も高速に進み、汎化性能も獲得することができました。 次回の記事では、VGG16を活用して、SVMへの転移学習によって機械学習モデルを作成し、100%の精度を 達成します。

#### 参考

- Building powerful image classification models using very little data
- Applications Keras Documentation

ツイート

#Amazon EC2#Custom Vision Service#Keras#Python#TensorFlow#ニューラルネットワーク#機械学習 データ分析と機械学習とソフトウェア開発をしています。 アルゴリズムとデータ構造が好きです。

### Recommends



GCPの利用料が安くなる|GCPの請求代行・運用代行・導入移行支援AWS

2020.5.18
About us会社情報 CategoryAWS
セミナー・イベント Data Science
採用情報 Tech
執筆者への取材依頼 Event
フォトギャラリー Column
Tags
Members

商標について 個人情報保護方針 ISMS認証